

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事例概要について】



1. 事故・ヒヤリハットの別	ヒヤリ
2. 体験した事例の名称	大型車両追突事故救助現場における救助活動中のヒヤリハット事例について
3. 体験した事例の中心的要素	普通車を含む3台が関係する大型トラックによる追突事故で、追突車両内に運転手の男性1名が下半身を挟まれ閉じ込められていた。現場の状況から、救助工作車1台の資機材では救出不可能と判断、応援隊（救助隊1隊）と一般の牽引業者を要請し、救助活動を行った。救出には、車両の引き離しが必要であったが、前方車両は、中央分離帯に乗り上げ走行不能状態で、追突車両の引き離しを試みたが駐車ブレーキがロックしており。ブレーキロックを解除して、再度、業者の牽引車による牽引を行った際に、牽引距離が大となり、車内で要救助者を観察及び保持していた隊員が当該追突車両から転落しそうになり、受傷させそうになった。
4. 体験した事例の原因・理由	<p>普通ワゴン車1台（要救助者1名死亡）大型トラック2台（要救助者1名重症）による多重衝突事故のため活動現場での指揮統制がとれていなかった。</p> <p>牽引時に要救助者を観察しながら牽引の指示を行い、牽引車両オペレーターとの間に、指示中継役の隊員を配置して牽引作業を行ったが、距離が離れていたため停止の指示が伝わるまでのタイムラグがあった。</p> <p>被牽引車両が10tを超える車重があり、さらに僅かではあるが牽引側が上り傾斜であった。</p> <p>牽引車両の牽引距離が活動隊員の予測を超えていた為、対応が遅れ転落しそうになった。</p> <p>押しつぶされた車内での活動となり、足場が狭く不安定であった。</p>

【体験した事例の直接的な原因について】



1. 体験した事例の直接的な原因	行動の意志決定に問題があった。
------------------	-----------------

【体験した事例について】



1. 発生日時	平成 19年 3月 13日 午後 11時頃
2. 発生した当時の天候	曇
3. 発生した活動現場	屋外：片側2車線の国道バイパス終点の下り坂で僅かに左カーブしている交差点付近
4. 体験した事例の種類	回答者が、他人を負傷させた。
5. 事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）	軽傷の怪我をしていた（させていた）だろう。
6. どのようなことが起きたのか（起きそうになったのか）	墜落・転落、
7. 事例体験時の活動	救助、現場活動中期、 []
8.（7の活動中） どのような作業中に発生したか	人命検索・救出、
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した。

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）

当事者A	年齢[38]歳、勤続年数[13]年、現場経験年数[6]年、階級[消防士長]、同様の活動 [過去に1,2回程]、任務 [車長]
当事者B	年齢[34]歳、勤続年数[12]年、現場経験年数[7]年、階級[消防士長]、同様の活動 [過去に1,2回程]、任務 [隊員]
当事者C	年齢[29]歳、勤続年数[7]年、現場経験年数[5]年、階級[消防士]、同様の活動 [初めて]、任務 [隊員]
その他 (当事者が4人以上の場合)	

11. 事例発生の経過。



	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過 1	当事者 A・B・C	追突車両内の要救助者の救助活動にあたる。車両による牽引を行うが、駐車ブレーキがロック状態のため牽引できず。	
経過 2	当事者 A	現有の資機材では救出不可能と判断し、業者(牽引車)を要請する。	
経過 3	当事者 B・C	車内にて要救助者の観察をしながら、資機材を使用しでの救出活動を行う。	
経過 4	業者	到着後、ブレーキロックを解除し、牽引車による車両牽引を行なう。	
経過 5	当事者 A	牽引を指揮し、業者と隊員の連携を図る。	
経過 6	当事者 B・C	車内で資機材の保持・要救助者の確保を行いながら、牽引の衝撃に身構える。	
経過 7	業者	当事者 A の合図により牽引。	
経過 8	当事者 B・C	予想を超える牽引の衝撃、引き幅に車両が大きく動き、停止を求めるが、伝達にタイムラグがあり、すぐには止まらず危険を感じる。	
経過 9	当事者 A・B・C	数回に分けての牽引後、挟まれ状態から解除され、要救助者を救出。	
経過 10			

【その事例発生時の状況について】

事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思うか?
 ヒヤリハットの場合: ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか?

集中力、注意力があった。

心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	いいえ
・活動終息(鎮火等)や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	いいえ
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・ 装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・ 装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・ 装備・資機材の対処能力を超えていた。	はい
・ 必要とする装備・資機材がなかった。	はい

活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・ 障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・ 特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・ 狭隘な場所であった。	いいえ
・ 暑かった（寒かった）。	いいえ
・ 野次馬が多かった。	いいえ
・ 現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・ 足元が躓いたり滑りやすかった。	はい
・ 足元の強度が不足していた。	はい

指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・ 活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	はい
・ 指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・ 指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・ 隊員の連携が不十分だった。	はい
・ 隊員が不足していた。	いいえ

その他

l. その他の理由があった。

--

